

「第1篇 商品と貨幣」のおさらい学習会(1年分)やります 次回の『資本論を読む会』

第14回の「資本論を読む会」は
「第1編 商品と貨幣」(第1章・商品、第2章
交換過程、第3章貨幣または商品流通)の
おさらい(全文を要約レポート)やります

◎リスタートです! 次回からの初参加大歓迎!!

日時:2019年11月5日(火)午後6時~

会場:支局・社青同事務所

「読む会」がスタートして1周年を記念する10月1日の例会は、今回も参加者が7名。

無事(?)に第1編の「商品と貨幣」(全文で254ページ)を読み終えました。早いものですね。本当に牛歩のような1年でした。

一区切りですから、これまで読んだ分の「おさらい」学習会にしようということになりました。今まで、なかなか参加の機会が作れずにきた仲間には、リスタート(再出発)のチャンスにも出来ます。

今回は、第1編全体を通しての要約レポートをお願いして(担当はKaiさん)、フリーに意見交換するようなものになります。

資本論は「要約したものだと、大変わかりやすく」なります。これは参加者の共通した感想です。※終了後、飲み会もやります。

初めての方大歓迎。『資本論第一分冊』(国民文庫)は、社青同にも在庫があります。また、これまでの資料は下記ホームページでご覧になれます。

◎ <http://socialistho.cafe.coocan.jp/>「資本論を読む会」コーナーにあります。

レポーターから

「第3節貨幣」は「価値尺度として機能し、流通手段として機能する商品(金または銀)は貨幣である。」との文で始まる。この節は下記 a. b. c の3項目で構成される。解説・要約本がいくつか出ているが、それによると

a 貨幣退蔵…長谷部訳では「貨幣蓄蔵」とある。【要約】①流通の外に出て貯めこまれた貨幣のこと。②いつでも好きなものが買える。

b 支払い手段…【要約】①買った後に分割でお金を払うなど、商品の支払い手段に多様性を生む。

c 世界貨幣…【要約】①価値を直接表す金属としての金や銀で、国際間の決済を行う。

以下、本文から特徴的な(マルクスの少々難解な)文章を抜き書きする。

【a 貨幣退蔵】○貨幣は…二つ相対立する商品変態/売買/循環(W-G-W)が中断され、売りが買いによって補足されないようになると、ただちに不動化する。(そして)金蝨を確保するという必然と熱情とが発展してくる。商品形態を貨幣形態で置き換えるために、商品は売られる。この形態変化が…自己目的となる。…貨幣は退蔵貨幣に固定化する。→「金と銀の退蔵が成立する」同時に「黄金欲も目ざめてくる。」○貨幣退蔵の衝動は、その本性上とどめがない。→禁欲の福音に忠実に、勤勉と節約と吝嗇(ケチ)はその主徳をなす。○美的形態=金・銀商品の所有も進む。

【b 支払い手段】○商品流通の発達とともに、商品の売渡しは、時間的に分離されるという関係が発展する。売り手は債権者となり、買い手は債務者となる。貨幣もまたまた一つ他の(新しい)機能を得る。貨幣は支払い手段となる。金貨または銀貨は、主として小取引の部面に追われる。○貨幣退蔵は、ブルジョア社会の進歩とともに、独立の致富形態としては消失するが、支払い手段の準備基金の形態で増大する。

【c 世界貨幣】○貨幣は、国内流通から外に出るとともに、…貴金属本来の地金形態にかえる。商品はその価値を、世界的に展開しなければならぬ。世界市場ではじめて、貨幣は、十分な範囲で商品として機能する。世界市場においては、二重の価値尺度、金と銀が支配的である。○世界貨幣は…支払い手段、購買手段、社会的富一般(普遍的な富)の体化物として機能する。(レポートは anak さんでした)

